

## 官民連携プラットフォーム 活用事例③

タイトル:スマートフォンアプリによる市民の脱炭素行動促進(実証実験)(担当課:環境政策課)

### ■課題のポイント

目指す未来	<ul style="list-style-type: none"><li>本市からのCO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロにして、「ゼロカーボンシティかごしま」を実現したい！</li></ul>
現状	<ul style="list-style-type: none"><li>国内外において記録的な暑さや豪雨災害に見舞われ、脱炭素化はまさに喫緊の課題である。</li><li>2050年までにCO<sub>2</sub>排出量を実質ゼロにするというハードルは非常に高く、DXを通じた取組など、新たなものが必要と考えている。</li></ul>
解決したい課題	<ul style="list-style-type: none"><li>本市のCO<sub>2</sub>排出量は運輸部門からの排出が最も多く、重点的な取組が必要。</li><li>脱炭素に向けた普及啓発はこれまでも注力してきたが、「どのような行動がどの程度の効果があるのかわからない」という市民からの意見を受けることが多く、取組の「見える化」が課題である。</li></ul>

### ■実施事業(実証実験)のポイント

提案企業	株式会社スタジオスポビー（本社：東京都中央区）
取組内容	<ul style="list-style-type: none"><li>同社が開発したスマートフォンアプリ「SPOBY」を活用し、自動車等の代わりに徒歩や自転車で移動したことにより削減できたCO<sub>2</sub>排出量をポイント化する。</li><li>貯めたポイントは、協賛企業から提供された特典と交換できる。</li><li>実証実験は令和5年10月の1ヶ月間で、特典交換会を令和5年11月4日の食育フェスタにブースを出展して実施した。</li></ul> 
成果	<ul style="list-style-type: none"><li>実証実験には1,041名が参加し、参加者全員による脱炭素量の合計は約983kg CO<sub>2</sub>となった。(脱炭素量は、杉の木約1,300本が1ヶ月に吸収する量に相当。)</li><li>参加者の平均歩数が一人一日あたり約300歩増加した。</li><li>実証実験後のアンケートでは、7割以上の方が「少しの距離なら歩こうという機会が増えた」、「アプリをきっかけに環境配慮行動に気を付けるようになった」と回答し、脱炭素に関する意識向上が図られた。</li></ul> 
担当者の声	<ul style="list-style-type: none"><li>スマートフォンアプリによる実証実験の結果、脱炭素効果および市民の行動変容が見られたため、一定の成果はあったと考えている。</li></ul>